第三十二日目

師　範：ポルトガル人が今の鹿児島県の種子島にたどり着いて，鉄砲を伝えました。

それが１５４３年。種子島の海岸には砂鉄がたくさんふくまれています。
鍛冶(かじ)の職人が複製をこころみます。しかしどうしてもねじというものがわかりません。あのらせんの凹凸と，対でつくることがわからなかったのです。
そんな苦労を乗り越えて，日本の職人は見事に複製と生産に成功していきます。
それでも火薬がつくれません。原料の硝石(しょうせき)がほとんどないからです。
これも輸入にたよるわけですが，国内でつくる工夫もしました。
ヨーロッパの新兵器が，地球の裏側の日本で大量につくられ，広まっていったのです。
戦争の仕方ががらりと変わりました。城のつくり方も変わりました。

１５４３年　鉄砲が伝来する。

この年を覚えましょう。

コン太：これはどうでしょうか。

「大名に以後しみ渡る火縄銃」

１５は「いご」と読み，４３は「しみ」と読みました。

師　範：戦国大名が競って手に入れようとしましたが，一番積極的に大量に仕入れたのが織田信長でした。

ペン太：お父さんは

「日暦めくる種子島」

と覚えたそうです。
「ひごよみ」で１５４３を読みかえています。

「種子島以後読みかえる戦のしかた」

「いご」は１５，「よみ」は４３です。

師　範：五・七・五になるといいですね。
「いくさのしかた」を「いくさほう」とでもすれば五音になりますね。
読み比べてみてください。